

爪

おまえにもう一つ声が必要なら
俺は自分の声帯をやる

新しい視界が必要なら
俺の角膜を贈る

脚（あし）だろうが

脊椎だろうが

心臓だろうが

もしもおまえの中に生きられるなら

俺は迷わない

なんだっておまえにさしだす

そして俺は知っている

たとえ爪一枚たりとも

おまえは俺からは受けとらない